

京都府看護人材交流支援事業 活動報告・説明会

平成28年1月8日（金） 17：30～
外来棟5階 A会議室

地域医療機関等との相互人材交流推進で、総合的な看護力の底上げを！
地域や看護領域の枠を超えた新たな人材交流プログラムがスタートしています！

高度急性期から在宅看護まで、在籍出向による 施設間の連携に強い看護師養成プログラム

看護職キャリアパスセンターでは2015年4月から京都府の支援を受けて、機能の違った病院での経験を通して看護の連携を学びあう人材交流プログラムをスタートさせました。

今回は、看護部長の話のほかに、看護部に在籍したまま実際にこのプログラムを体験している4年目スタッフの発表もあります。地域医療や在宅看護、ホスピスへ興味のある方は、是非ご参加ください。

京丹後市立弥栄病院 2015年7月～

緊急時に妊婦さんを送り出す側と受け入れる側。
双方の連携が母子の安全を高めますと実感

京大病院では診察にあたる医師をサポートする立場でしたが、助産師外来では自分がメインとなって4Dエコーを使ったり、判断したりして、とてもいい勉強になっています。

新たな気づきもありました。それは、緊急時に妊婦さんを高度急性期病院等へ送り出す側の状況、気持ちです。この病院には常勤小児科医がいないので、対応が難しいと判断した場合は他病院へ妊婦さんを送り出す必要があるのです。送り出す側が、どのタイミングで判断し、移送するのかを知ることができました。機能の異なる病院同士が上手く連携することで、母子の安全を高めることができるのだと実感しました。

公立南丹病院 2015年4月～

環境に応じて求められる看護も変わる。
自分の行うケアや関わりを見直すきっかけに

大病院と現在働いている病院とでは、入院される患者さんの層や疾患だけでなく、設備もマンパワーも全く異なります。大きな枠組みでは同じ“看護”をしていますが、環境に応じて求められる看護も変わるということに気づき、自分の行っていたケアや関わりを見直すきっかけになりました。改めて、看護は、人と人との関わりの上で成り立っているお仕事だと感じ、どんな時でも、笑顔と思いやりを忘れずに働きたいと思いました。

公立南丹病院 2015年4月～

お産に取り組む姿勢もさまざま。
環境に則した介助を

南丹病院に来てなんとなく感じたのは、妊婦さんの状況やスタンスがこれまでと違うこと。京大病院ではハイリスク妊娠・分娩の方が多くゆえに「治してもらおう」という意識の方が多いような気がしましたが、こちらでは「安心して生む」ために来られる方がほとんど。余裕をもって話す時間があるのです。お産に取り組む姿勢もさまざまなのだと感じました。

これまでと違う環境を経験したことで、助産師としての多様性に触れることができたと思います。高度な治療を要する方だけが対象ではない……。これからは患者さんにとってよりよいケアが何なのかを考えながら、看護に当たっていきたくと思っています。

綾部市立病院 2015年4月～

療養中の患者さんと向き合い、
“その人らしく生きる”看護を

今回派遣を希望したのも、患者さんと向き合い“その人らしく生きる”ことを第一に考え、“牽引でなく伴走する看護”を提供したいと思ったからです。

異なる環境で勤務する不安もありましたが、派遣先の綾部市立病院も京大病院と同じPNSがあり、ベアの先輩に知らないことを質問しながら自然に慣れることができました。環境が変わっても看護の目的や対象は同じ。今までの経験がゼロになるわけではなく、“看護師6年目として自信を持って仕事をしたらいいのだ”と思えるようになりました。



あそかびハーウ病院 2015年4月～

患者さんの気持ちを予測し、
適切なケアができる看護をめざす

今回の派遣で、急性期病院で大きな手術や、放射線治療・化学療法などを受け、さまざまな経過をたどられてホスピス病院へと来られる患者さんを身近でケアさせていただくことができ、改めて死の迎え方について考えさせられました。

いい時間を過ごしていただくための緩和ケアをしっかりと学び、京大病院に戻ったときにスタッフで共有できるようにしたいと思っています。

助産師・看護師のみなさん、ぜひチャレンジしてください。

そして患者さんにいい看護を提供し、継続看護のリレーのバトンをつないでほしいと願っています。